

イベントが目白押しの中で、特に注目は～米FOMC、雇用統計

2018年7月30日(月)

今週はイベントが目白押しの週となっています。

主なものだけでも、30日、31日の日銀金融政策決定会合、31日の米PCEデフレーター、31日、1日の米連邦公開市場委員会(FOMC)、1日の米ISM製造業、2日の英中銀スーパーサズデー、3日の米貿易収支、雇用統計があげられます。

いずれも相場が大きく動いてもおかしくない材料ですが、中でも注目を挙げると、FOMCと米雇用統計の2つ。

米FOMCに関しては、今回の会合は参加メンバーによる経済や金利に関する見通し(プロジェクションマテリアル)の発表やパウエル議長の会見などが予定されている回ではなく(年8回のFOMCの内、交互に年4回が会見などあり、年4回がなし)金融政策が変更されるとみる向きはほとんどありません。

ただ、その次、9月の利上げを見込む動きが広がっており声明などで次回の利上げに向けた地ならしがされるのではとの期待が広がっています。

パウエル議長は、議会証言などで漸進的な利上げ姿勢を継続する姿勢を示しており、今回のFOMCでの声明で次回利上げに向けた力強い表現が出てくるとドル買いにも安心感が広がりそう。

その他声明の中での注目ポイントとしてはここにきて縮小が目立つ長短金利差(イールドカーブのフラットニング)について言及があるかどうかなどです。

長短金利差は、歴史的に今後の深刻な景気減速につながるような水準まで大きく縮小しています。そのため、市場の警戒感を誘っている面があります。

また、賃金の伸びの鈍化や、海外経済の不透明感なども気になるところです。こうしたやや警戒感のある材料に対して弱気な姿勢を示した場合はドル売りが強まる可能性も。

続いて3日の米雇用統計(7月分)です。

前回6月分の雇用統計は、非農業部門雇用者数(NFP)が予想を上回り、20万人の大台超えとなったものの失業率が予想外に0.2%ポイントも悪化し、4.0%の大台に戻しました。

もともと労働参加率が上昇していたこともあり、それほど弱いという印象は受けませんでした。

今回はNFPの予想が+19.5万人と、20万人割れも水準的にはかなりしっかり。失業率は0.1%戻して3.9%の見込みとなっています。

予想通りの数字が出てくると、9月の利上げに向けて雇用市場は万全という印象で利上げ期待をサポートする形でドルを押し上げてくる可能性も。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社みんかぶ